

## 多文化共生事例集作成ワーキンググループ（第3回）

### 議事概要

#### （1）山脇座長より開会挨拶

#### （2）事務局より資料について説明

##### ○ 資料1（追加事例一覧）

- 第2回ワーキンググループ（以下「WG」とする。）において、構成員より追加で推薦された15事例の調査結果について説明。

##### ○ 資料2-1（項目別掲載候補一覧）

- 第2回WGにおいて概ね掲載することとした43事例（○）、地域的な偏り等を踏まえつつ再検討が必要とされた21事例（△）、未評価の6事例（－）を合わせ、掲載候補は70事例（資料1の追加事例も含む）。
- 現状では1項目5事例前後の項目がほとんどであるが、「（1）①多言語・やさしい日本語による情報提供」など、○の事例が多い項目については事例数を調整する必要。

##### ○ 資料2-2（地域別掲載候補一覧）

- 地方別・都道府県別の事例数について説明。
- 掲載候補事例数の多い都道府県や、極端に少ない地域について、地域的な偏りの観点から検討が必要。

#### （3）意見交換

##### ○ 追加事例一覧（資料1）について

- 構成員より追加で推薦された15事例を○（10事例）または△（2事例）として評価。

##### ○ 掲載候補一覧（資料2-1及び資料2-2）について

- 項目ごとの掲載事例数のバランスや地域的な偏りを考慮しつつ、掲載する事例の選定が了承された（選定された事例数：50事例）。
- 情報が不足している2事例については、掲載するかどうかの判断は保留とし、追加調査をした上で改めて検討する。

## <主な意見>

### (地域バランスについて)

- ・ 候補事例は近畿や東海に特に多く、中国、四国、九州に少ないので、事例の選定にあたっては考慮する必要がある。
- ・ 1つの項目内に、同じ市町村の事例が2つ以上ある場合、地域バランスの観点からも精査して掲載の判断をすべき。

### (項目ごとのバランスについて)

- ・ 複数の項目にまたがる事例については、項目ごとの掲載事例数のバランスも考慮しつつ、内容的により適切な項目への変更も行うべき。
- ・ 選定の結果、他項目と比較して掲載事例数の多くなった「(1) ①多言語・やさしい日本語による情報提供」や「(2) ②教育」については、応募事例自体の数が多く、いずれも特徴的な取組で全国的に展開する意義があると思われることから、掲載事例数を減らす必要はない。

## ○ コラムを設けることについて

- 他の地域が参考にしにくい、熊本地震における災害対応、過疎地における多文化共生の取組、企業との連携の事例について、コラムとして掲載することについて了承された。

## ○ 前文及び後書きについて

- 資料3の骨子に基づいて作成することが了承された(前文：事務局、後書き：山脇座長)。

## (4) 今後のスケジュール

### ○ 今後のスケジュールについて、以下の点が了承された。

- ・ 第4回WGは来年2月中旬～下旬に開催する。
- ・ 来年1月中を目途に事例集原案を構成員に確認頂き、その意見を反映させた上で、第4回WGで決定する。
- ・ 第4回WGでは、事例集のデザインや配布先等も決定する。

以上